

みんなで育てよう、緑豊かな私たちの森！子ども達に贈る自然いっぱい森

能ヶ谷西緑地だより

2026年10月1日号 246 号 能ヶ谷西緑地・樹の会

【10月の予定】

◆10月10日（土）（雨天翌日）

・桜広場草刈り

◆10月24日（土）（雨天翌日）

・花広場草刈り

* 9:00 現地集合（9:00～11:30）

◆10月3日（土） 10:00～12:00

・やまゆ連・手作りカフェ

平和台集会所

問合せ：伊藤（735-8623）

どなたでも参加自由です。



※※※※※※

緑地だより

※※※※※※

9月12日（土）曇 参加者 8名

1週間以上の雨が続けていた。線状降水帯という言葉が毎日聞かれるようになっていく。今朝は小雨だったがじきに止み、曇り空の作業日となった。今日は花広場の草刈り。まず歩きやすいように通路から。刈払機は1台が作動し、鎌の手刈りの人に分かれて始める。

夏までは葛がはびこっていたが、秋に向かうこれからはヤブガラシなどいくつかの蔓草が、小さいツツジの木などにおおいかぶさっている。そういうのは根を抜いてメリメリとはがしていく。通路には10cmほどのキンミズヒキが、黄色い花房をたおわせて点々と咲いている。刈るには忍びなく残しておく。通り道なので知らずに踏まれてしまうかもしれないけれど。



刈り進むと、ミョウガの葉にしては大きいなと思ったら、ジンジャーリリイで白い花がよい香りだった。はびこり過ぎの雑草からかわいい野草、ちょっと洒落たハーブまで、花広場は楽しい場所だ。

ジンジャーリリイ

（宮崎）

【緑地に生える】キンミズヒキ（金水引）



緑地の小道の真ん中に咲いているので、踏まれやしないかと心配になるが、黄色い花が鮮やかで、誰もが思わず目を留めてしまう。すらりと長い茎に小さな5弁の花が寄り添って咲く様子が、金の水引に見立てられ、名前の由来に。

実が熟すと、野山を歩く時衣服にくっついてきてちょっと嫌われ者の「ひつつき虫」になってしまう。

ちなみに、紅白の花を咲かせる「ミズヒキ」はタデ科。キンミズヒキはバラ科である。（上野）

9月27日（日）曇 参加者 7名



コスモス

昨日が雨のため今日に延期となったが、8時ごろまで小雨が降ったがどうにかあがった。作業の前に道に木が倒れているというので、南東の山の赤松が枯れているし、花広場斜面にも倒木があるので、市に処理を頼むためにIさんとSさんが3本にテープを張る。その間に予定の南斜面の草刈りを始める。今年はコセンダングサがいっぱい生えてきているのでそれを抜き、葛を刈り取る。昨年まではコセンダングサは出ていなかったのに、植物の変遷はわけがわからない。柵にからみついた葛やオニドコロを丹念にとりのぞく。もう真夏の暑さはないが動く蒸し暑い。皆でやったので、柵を覆っていたのが除かれて視界が広がり気持ちいい。

蚊の猛襲を受けつつお茶を飲み、話し合い。6月に参加者募集のチラシを配ったが、反応がまったくない、今後どうするかをしばらく続けて皆で考えていくことにする。樹の会の今後は...

（宇野）

【やまゆ連・手作りカフェ】

カラムシでコースター作り
9月5日（土） 10：00～12：00
平和台集会所

今年の夏、関東地方は曇りや雨の日が多く、この日クーラーは不要でした。

直径12cmの円形の段ボールを台紙にして、直径約8～9cmのコースターを作ります。台紙の中央に小さな穴を開け、外側を13等分し約5mmの切込みをハサミで入れます。中央の穴と切込みに糸をしっかりと渡し、放射状に13本の経糸（たていと）を作ります。

中心から経糸に緯糸（よこいと）を上下上下と交互に通してグルグルと丸く織り進みます。経糸の数は奇数。13本位が緩やかな円が作れて、編み止まりの縁取りの始末もし易そうです。15本では編み込みが大変そう。私は、毛糸針を使って編み込んでゆきました。コースターが平らになるように糸の結び足しに苦心し、糸の事前の準備の大切さを思いました。

やまゆ連で、ずいぶん前にもカラムシコースターを作ったことがあります。氷を

入れたコップの水滴がカラムシに吸い込まれてゆく様子はステキで、乾きも早く耐久性もあり、夏に度々愛用しました。

カフェメニュー：チョコ羊羹（災害時に役立つ！）
（斎藤光代）



【緑地の樹】

キンモクセイ

プロフィール：モクセイ科モクセイ属の常緑小高木

平和台児童公園から緑地に入ると、右側の梅林の脇に、キンモクセイの木があります。

キンモクセイは、花は小さいのに香りは遠くまで届くのです。例年10月1日になると、決まってどこからか香りが漂ってきて「ああまたキンモクセイが咲き出した！」と思うのですが、今年はなんと、9月半ば過ぎには咲いてしまいました。そういえば去年は10月に入っても咲かず、やきもきしたのでした。異常気象で、花を咲かせるリズムが狂っているのでしょうか？

ともかくも、今年も咲いてくれたことに感謝です。キンモクセイは、秋が深まってきたことを教えてくれますね。

キンモクセイの実や種を見たことはありますか？中国から日本に入ってきたのは江戸時代、オスの木だけだったそうで、つまり実ができない

いのだとか。確かに、黄色い小さな花をよく見ると、雄しべしかありません。実ができないのでせっせと挿し木でふやしているのですが、それにしてもメスの木がないなんて、なんとなくかわいそうですね。

（小川）



【緑地を楽しむ本】

『人間が失いかけた ゴリラ・イルカの仲間を信じる力』 青春新書

山際寿一・田島木綿子 著 青春出版社



人間は言葉を使って目の前にないことを描写したり、認知したりする能力を獲得しました。でも言葉は、気持ちを伝えることはむしろ苦手なのだとか。ゴリラのように、目を見つめる、抱き合う…言葉を獲得するずっと以前から私達の祖先が取り合ってきたコミュニケーション能力を、私たち

は今失いつつあるようです。また、浜に打ち上げられたクジラの解体作業でそのクジラの生きてきた道筋を知るためには、もっとはっきりと、五感を働かせることが必要だと田島さんは強調します。SNS、AIの利用で、自分の体、気持ちを通さない情報を多用するようになってきている現代です。ここで踏みとどまって、ゴリラやシャチなど野生の生きものたちのコミュニケーションの力を見直す

べきなのではないでしょうか。

最近では、浜に打ち上げられたクジラの胃袋からレジ袋などのプラスチックが出てくることは普通になってしまいました。クジラたちは自らの死を賭して、「海はもう、あなたたちの欲望を浄化しきれない」と訴えているのです。またゴリラの住む森も、スマホに使うレアメタルを採掘するためにブルドーザーで伐採され、変わり果てた姿をさらしています。便利さを追求する人間の欲が、私たちの仲間である生きものたちの生存を脅かしている…ひいては人間をも…。自然と常に向き合ってきた著者お二人の危機感がひしひしと伝わってきます。

便利さに流されず、時間をかけて周りの人とのコミュニケーションをとることを大切にしていきたいと心に刻みました。

(小川)

緑地で実る



クヌギ



クリ



ゴズイ



クサギ

- ◆ 緑地内は自然緑地として保全をしています。
- ◆ ご意見は、nishiryokuchi@gmail.com まで

「緑地だより 編集：小川」

「能ヶ谷西緑地・樹の会」のHP（毎月末に更新）

<http://home.a03.itscom.net/ryokuchi/>

配信希望の方は、nishiryokuchi@gmail.com まで